

令和4年度人権教育総合推進地域 事業成果 具体例

成果概要(別紙3-1)に①設定した測定指標、②児童生徒の変容を記載したのは、人権教育総合推進地域では3地域/15地域

成果概要(別紙3-2)に②児童生徒の変容のみを記載した推進地域の例

申請者名	事業	地域・学校名	個別の人権課題	事業成果
3 栃木県	推進地域	小山市美田中学校区	子どもの人権、外国人、同和問題、ハンセン病患者等	知識的側面:「いじめはどんな理由があってもしてはいけない」5ポイント上昇した。 価値・態度的側面:「自分にはよいところがある」10ポイント上昇した。 技能的側面:「よりよい集団作りのため、友達と協力して行動している」2ポイント上昇した。
4 神奈川県	推進地域	三浦市教育委員会	子ども・女性・高齢者・外国人・ハンセン病患者等	・知識的側面:資料提示、講師の講話を通して、様々な人権課題を正しく理解できた。 ・価値・態度的側面:「友達のいいところを見つけたり、認めたりすることができているか」が小・中学校ともに90%の回答があり、相手を理解するために自分自身が学んでいくことの大切さに気付くことができた。 ・技能的側面:「問題の解決に向けて、自分で考え、進んで取り組むことができたか」が小学校で87%の回答があり、自分だったらどのように行動するかなど、課題解決に向けて主体的に考えることができた。
11 山口県	推進地域	萩市立旭中学校区	高齢者問題、インターネットによる人権侵害等	○ 児童生徒を対象としたアンケート結果(1学期末と2学期末の比較)から次の変容が見られた。(4段階評価の平均値) ・知識的側面「人の話を聞かるときに、その人の考えや気持ちを考えることが大切である」 3.1 → 3.2 ・技能的側面「自分の考えや気持ちを、相手にわかりやすく伝えようとしている」 2.8 → 3.3 ・価値・態度的側面「地域に関わる学習や行事をとらして、ふるさと旭を大切に思う気持ちが深まった」 3.1 → 3.3
13 愛媛県	推進地域	宇和島市	同和問題、高齢者、ハンセン病患者等、インターネットによる人権侵害	・知識的側面:様々な人権問題について「よく分からない」と答えた生徒が減少した。 ・価値・態度的側面:「自分自身のことが好きだ」と答えた児童が増加し、日常的に人権問題に対して関心をもっている生徒が増加した。 ・技能的側面:「周りに自分の意見を言える」と答えた児童が増え、「悩んだときに相談できる人がいない」と答えた児童が減少した。
15 鹿児島県	推進地域	始良市立山田中学校区	子どもの人権問題、同和問題、高齢者の人権課題、ハンセン病患者・元患者等の課題等	・知識的側面:友達と考えや気持ちを伝え合うことを大切にしようとする姿が見られるようになった ・価値・態度的側面:自分や他者のよさに気付き、自分や他者のことを大切にしようとする児童生徒が増えた。 ・技能的側面:困っている人がいるときは進んで助けようとする姿が見られるようになった。

令和4年度人権教育研究指定校 事業成果 具体例

成果概要(別紙3-2)に①設定した測定指標、②児童生徒の変容を記載したのは、人権教育研究指定校が10校/48校
 成果概要(別紙3-2)に②児童生徒の変容のみを記載した指定校の例

申請者名	事業	地域・学校名	取り組んだ個別の人権課題	事業成果
1 北海道	研究指定校	幌延町立幌延中学校	子供	・知識的側面:「自分や他者の人権が侵害されたときに、そのような対処の仕方があるのかを知っている」と回答する生徒の割合が77.5%(+17.5)になった。 ・価値・態度的側面:「困っている人がいたら助けてあげることができると思う」と回答する生徒の割合が97.5%(+10.8)になった。 ・技能的側面:「様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、扱うことができる」と回答する生徒の割合が100%(+8.7)になった。
			アイヌの人々	・知識的側面:「人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている」と回答する生徒の割合が98%(+2.4)になった。 ・価値・態度的側面:「様々な価値観を尊重しようとする」と回答する生徒の割合が97.5%(+4.1)になった。 ・技能的側面:「学級のみならず周りの仲間たちと協力して活動することができる」と回答する生徒の割合が100%(+2.2)になった。
			ハンセン病患者等	・知識的側面:「人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている」と回答する生徒の割合が98%(+2.4)になった。 ・価値・態度的側面:「様々な価値観を尊重しようとしている」と回答する生徒の割合が97.5%(+4.1)になった。 ・技能的側面:「学級のみならず周りの仲間たちと協力して活動することができる」と回答する生徒の割合が100%になった。
			インターネットによる人権侵害	・知識的側面:「自分や他者の人権が侵害されたときに、そのような対処の仕方があるのかを知っている」と回答する生徒の割合が77.5%(+17.5)になった。 ・価値・態度的側面:「困っている人がいたら助けてあげることができると思う」と回答する生徒の割合が97.5%(+10.8)になった。 ・技能的側面:「様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、扱うことができる」と回答する生徒の割合が100%(+8.7)になった。
			性的指向、性自認	・知識的側面:「自分や他者の人権が侵害されたときに、そのような対処の仕方があるのかを知っている」と回答する生徒の割合が77.5%(+17.5)になった。 ・価値・態度的側面:「様々な価値観を尊重しようとしている」と回答する生徒の割合が97.5%(+4.1)になった。 ・技能的側面:「相手の悩みや気持ちを、相手の立場になって受け止めることができる」と回答した生徒の割合が97.5%(+8.6)になった。
			高齢者	・知識的側面:「すべての人が大切にされなくてはならない」と回答する生徒の割合が97.5%(+2)になった。 ・価値・態度的側面:「困っている人がいたら助けてあげることができると思う」と回答する生徒の割合が97.5%(+10.8)になった。 ・技能的側面:「相手の悩みや気持ちを、相手の立場になって受け止めることができる」と回答する生徒の割合が97.5%(+8.6)になった。
2 青森県	研究指定校	おいらせ町立甲洋小学校	子供	方法:全児童へのアンケート評価指標④、③の変容でみとる 評価指標:4段階④でもできている⇒③できている⇒②まあまあ⇒①できていない ・知識的側面:いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 7月 95% ⇒ 12月 95% ・価値・態度的側面:自分のよいところがわかり、自分を大切にしていますか。 7月 84% ⇒ 12月 87% ・技能的側面:人が困っているときは、進んで助けている。 7月 83% ⇒ 12月 90%
			障害者	方法:4.5.6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる 評価指標:4段階④でもできている⇒③できている⇒②まあまあ⇒①できていない ・知識的側面:障害者をもっている人がどんなことで困っているのかのくらい知っていましたか。(受講前)大体知っていた14% まあまあ知っていた32% (受講後)全員が講話や体験で学んだことを記述できていた。 ・価値・態度的側面:障害者をもっている人のことをどう思っていましたか。(前)とても好き・まあまあ好き39%⇒(後)80% ・技能的側面:受講後、どんな点が変わりましたか。 手伝いたいと思うようになった、実際に手伝っている、敬う気持ちをもった、進んで関わっている等
			インターネットによる人権侵害	方法:4~6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる 評価指標:4段階④とても好き・とても理解できている⇒③まあまあ好き・まあまあ理解できている ⇒②少し好き・少し理解できる⇒①好きではない・理解できていない ・知的側面:ネットやSNSでの犯罪や被害についてどのくらい知っていましたか。⇒ 受講後、分かったか。(受講前)とても38% まあまあ40% ⇒ (受講後)とても69% まあまあ49% ・価値・態度的側面:ネットやSNSにあなたの悪口が書き込まれていたらどうしていましたか。(受講前)大人に相談する55% 仕返しを怖いので黙っている10% ⇒(受講後)大人に相談する71% 仕返しを怖いので黙っている0% ・技能的側面:ネットやSNSで犯罪や被害に遭ったら学校や警察、相談窓口には知らせることができるか。 7月 36% まあまあできそう29% たぶん27% できない18% ・受講後、ゲームやネット、SNSへの考え方や使い方は変化したか。 とても変わった31%、少し変わった58%、全く変わらない11%
			高齢者	方法:5.6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる 評価指標:4段階④でもできている⇒③できている⇒②まあまあ⇒①できていない ・知識的側面:高齢者がどんなことで困っているのかのくらい知っていましたか。(受講前)大体知っていた8% まあまあ知っていた32% (受講後)全員が講話や体験で学んだことを記述できていた。 ・価値・態度的側面:高齢者のことをどう思っていましたか。(前)とても好き・まあまあ好き43%⇒(後)78% ・技能的側面:受講後、どんな点が変わりましたか。 手伝いたいと思うようになった、実際に手伝っている、進んで関わっている、高齢者に関わる仕事に興味が出てきた等
			外国人	方法:5.6年生へのアンケート評価指標④、③と記述の変容でみとる 評価指標:4段階④とても好き・とても理解できている⇒③まあまあ⇒②少し⇒①好きではない・理解できていない ・知識的側面:日本に住む外国人がどんなことで困っているのかのくらい知っていましたか。(受講前)大体知っていた2% まあまあ知っていた24% (受講後)全員が講話や体験で学んだことを記述できていた。 ・価値・態度的側面:日本に住む外国人のことをどう思っていましたか。(前)とても好き・まあまあ好き43%⇒(後)78% ・技能的側面:受講後、どんな点が変わりましたか。 日本人と同じように接したいと思うようになった、自分にできることをしたい、外国や外国人に関わる仕事に興味が出てきた等。
			3 岩手県	研究指定校
⑥外国人	事業実施:7月 → 12月調査:「自分と違う考えの人や異文化の人でも受け入れること」を考えて行動することが出来ていると回答した生徒の割合 97%(事業5ヶ月後でも人権意識が継続)			
⑩インターネットによる人権侵害	事業実施:2月 → 事業後調査:「情報メディアの危険性を理解し、人権侵害とならない使い方」に注意しなければならないと回答した生徒の割合 99.3%(ほぼ100%の生徒が理解した)			
⑬その他(基本的人権)	事業実施:6月 → 12月調査:「自分を大切に、自分以外の人も大切」と考えて行動することが出来ていると回答した生徒の割合 95%(事業6ヶ月後でも人権意識が継続)			
⑬その他(基本的人権)	参加的・協力的・体験的なアクティビティにより、生徒は意欲的に活動に取り組み、人権を学ぶ感覚を持たずに人権を考えて思考し、自然と人権感覚を身に付けさせることができた。			
⑬その他(自己肯定感の向上)	事業実施:12月 → 事業後調査:「人と比べず、自分はじぶんのままでいい」と思えるようになったと回答した生徒の割合 96%(生徒の感想を含め、自己啓発が進んだものと考え)			
4 栃木県	研究指定校	益子町立益子小学校	子供	・知識的側面:世界に存在する子どもの人権問題について知ることができた。 ・価値・態度的側面:自分にできることを考え、実践していくとする態度が育ってきた。 ・技能的側面:募金への参加や残食の削減、フェアトレード商品の購入など、自分ができることに取り組む様子が見られた。
			女性	・知識的側面:思春期の心の働きについて知り、男女の協力の大切さを知ることができた。 ・価値・態度的側面:男女が仲良く生活するための接し方について考えることができた。 ・技能的側面:実際に日常生活の中での異性との関わりについて考え、実践していくとした。
			高齢者	・知識的側面:交流を通して、高齢者の生活や思い、願いについて知ることができた。 ・価値・態度的側面:高齢者に対し、どのように接すればよいか考えることができた。 ・技能的側面:日常場面で高齢者に優しい言葉をかけたり、手助けしようとしたりする様子が見られた。
			障害者	・知識的側面:手足や目に障害をもつ人々の生活について、体験を通して具体的に知ることができた。 ・価値・態度的側面:体が不自由な人に対し、どのように接すればよいか考えることができた。 ・技能的側面:日常場面で体が不自由な人々をサポートしようとする様子が見られるようになった。
			同和問題	・知識的側面:過去の身分制度がもたらした現在まで残る同和問題について知ることができた。 ・価値・態度的側面:差別の不当性に怒り、差別を受ける者に寄り添う態度が育ってきた。 ・技能的側面:差別に向き合い、解消していくこととする様子が見られた。
			アイヌの人々	・知識的側面:アイヌの歴史や文化、差別について知ることができた。 ・価値・態度的側面:アイヌの多様な文化について知り、尊重しようとする態度が身に付いてきた。 ・技能的側面:様々な文化を受け入れ、大切にしていこうとする様子が見られた。
6 東京都	研究指定校	台東区富士小学校	子供	知識的側面:自分では気付いていないが、意図せず差別してしまっていることがあることを知れた。 価値的・態度的側面:自分も相手も気持ちよく過ごせることが大切であり、そのような学校・学級づくりに関心をもつようとする態度の素地が育てられてきた。 技能的側面:自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を大切に耳を傾けようとする力が育ってきた。
			高齢者	知識的側面:高齢者のくらしや、困っていることについて理解することができた。 価値的・態度的側面:疑似体験を通して、高齢者の困っていることを知り、思いやりの気持ちや態度が見られるようになった。 技能的側面:困っている人に対して自分たちができることについて考える力が育ってきた。
			障害者	知識的側面:障害者の暮らしや、そのバリアとなることについて理解することができた。 価値的・態度的側面:校内や町の中でのバリアについて調べたことと、自分にできることはないかと積極的に関わりをもちようとする態度が見られた。 技能的側面:障害の有無によらず、共に理解し合いながら生きる大切さについて考える力が育ってきた。
			インターネットによる人権侵害	・知識的側面:ネット上でも現実同様に相手のことを考えることが大切だと気付いた。 ・価値・態度的側面:気をつけて話したり、聞いてみようとする態度が身に付いてきた。 ・技能的側面:誤解がないよう気をつけて話したり、よく聞いて理解しようとしたりする様子が見られた。
			性的指向、性自認	・知識的側面:様々な考えをもつ人々と暮らしていることを知ることができた。また、性的マイノリティに関わる人権問題について知ることができた。 ・価値・態度的側面:自分とは異なる考えを受け入れる態度が育ってきた。 ・技能的側面:自分とは違う意見をからかたりせずに受け入れようとする様子が見られた。
			外国人	・知識的側面:他の国には、日本と違う生活習慣や文化があることを知り、その違いから生じる問題があることを知ることができた。 ・価値・態度的側面:他の国の伝統や文化に関心をもつようとする態度が育ってきた。 ・技能的側面:相手の立場に立って物事を考える姿が見られた。

申請者名	事業	地域・学校名	取り組んだ個別の人権課題	事業成果
			同和問題(部落差別)	知識的側面: 厳しい差別を受けながらも、社会に貢献していた人々が多かったという事実を知り、人権問題を解決しようとするための必要な知識を新たに得ることができた。 価値的・態度的側面: 厳しい差別を受けていた人々の暮らしや職業について、現代にも伝わる伝統という視点から自分事として考える素地が育ってきた。 技能的側面: 他の歴史的背景をもつ人権課題について、さらに調べ、問題点を把握しようとする力が身に付いた。
			外国人	知識的側面: 文化や生活習慣の違いや、外国人に対する偏見や差別があることを理解できた。 価値的・態度的側面: 自分たちにできることをグループで考える際には、実現可能性や相手の立場を考慮しながら、主体的・協同的に話し合う態度が見られた。 技能的側面: 日常生活の中にある差別や偏見に気づこうとしたり見極めようとする力の素地が育ってきた。
			HIV感染者	・知識的側面: HIVウイルスや感染者についての知識が身に付いた。 ・価値的・態度的側面: 差別や偏見が、病気の発見や治療など、人々の生活に及ぼす影響について考えようとする姿が見られた。 ・技能的側面: 共に理解し合いながら生きていく大切さについて考える力が身に付いた。
			ハンセン病患者等	・知識的側面: ハンセン病に関わる人権侵害等の歴史現状などについて正しい知識が身に付いた。 ・価値的・態度的側面: 差別や偏見なく、互いの人権を尊重しながら生きていくために、自分にできることを考えようとする姿が見られた。 ・技能的側面: ハンセン病患者・回復者の実態について共感的に受け止め、発言や文章に表現したり伝えたりすることができた。
			インターネットによる人権侵害	知識的側面: 人権問題を予防したり解決したりするために必要な知識が身に付いた。 価値的・態度的側面: ネット上の人権問題を自分に関わりのあることと捉え、積極的に社会に参画しようとする態度の素地が育まれてきた。 技能的側面: インターネットに対する考え方には違いがあることを認め、受容しようとする能力が育ってきた。
8	研究指定校	神奈川県立藤沢総合高等学校	子供	・知識的側面: いわゆる寄付行為とは別の形の支援方法を知ることができた。 ・価値的・態度的側面: 授業での振り返りにおいて、児童労働や食の偏重に関して興味関心を持った記述が見られた。 ・技能的側面: 文化祭の模擬店クラスにおいて、多くの生徒の投稿を促すための展示工夫を行うクラスが見られた。
			障害者	・知識的側面: ①出張授業の振り返りアンケート「障がい者への支援方法について新たに知ることができた」→95%以上の生徒が回答。 ・価値的・態度的側面: ②特別支援学校授業に参加「参加する前と後で、障がいに対する認識の変化はあったか」→変化があった=63% 変わらない=37%。 ※「変わらない」の回答の内容は、従前から障がいへの理解があったという意味で回答していた。 ・技能的側面: ②出張授業の振り返りアンケートにおいて、「相手の立場に立つて接する」という内容の記述が多数見られた。
			アイヌの人々	・知識的側面: アイヌの人々について「知っている・少し知っている」2年次生…旅行前53%→後58%。 ・価値的・態度的側面: アイヌの人々について「関心がある・少し関心がある」2年次生…旅行前44%→後50%。 ・技能的側面: 研修旅行後の振り返り(記述式)で、「アイヌの人々の文化」について「理解できる」「尊重できる」という内容を記述した生徒が多数見られた。
			外国人	授業後の振り返りを実施 ・知識的側面: 在日朝鮮人が多く存在する理由について「理解できた」の回答が95%超。 ・価値・態度的側面: 在日朝鮮人の現在の課題について「関心が高まった」の回答が95%超。 ・技能的側面: いわゆる嫌韓論やヘイトスピーチについて、「許容されるものではない」「適切ではない」という内容の記載が多くみられた。
			ハンセン病患者等	参加者振り返りアンケートより ・知識的側面: 訪問して、ハンセン病への理解を深めることが「とてもできた」=100%の回答。 ・価値・態度的側面: 訪問してハンセン病問題の関心が「とても高まった」=95%の回答。 ・技能的側面: 生徒の記述より、「正しく理解することの大切さを知った」「ハンセン病に限らず無知が人を傷つけると感じた」等、知ることの大切さと、知った後に正しく行動することの重要性をほとんどの生徒が回答していた。
			インターネットによる人権侵害	・知識的側面: インターネットによる人権侵害について、「知っている・少し知っている」が実施後に70%の回答。特に「知っている」については、21→23%に上昇。 ・価値・態度的側面: 「関心がある・少し関心がある」が63%→72%に上昇。 ・技能的側面: リモートを通じた人権教育活動について、スムーズに取り組み生徒が増えた。 ○生徒の振り返りにおいても、「新しい気づきがあった」という内容の記述が多数見られた。
			性的指向、性自認	振り返りより ・知識的側面: LGBTQについて理解が深まったとの声が多く見られた。 ・価値・態度的側面: 「多様な価値観を認めている。尊重している」が実施前92%→実施後95%。 ・技能的側面: LGBTQの方への接し方について、新たな発見があったとの声が見られた。 ○発表を通じて、教員側も人権意識が潜在的に高い生徒が多く存在していることを知る機会となった。
12	研究指定校	新潟県立新潟江南高等学校	子供	・知識的側面: SNS教育プログラム等により知識を深めることができたため、意識変容調査では90%以上の生徒が「他人の考えや立場を尊重しようと思う」と回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「友達の気持ちを大切にしようと思う」と回答している。また、95%の生徒が「友達に困っているとき自分が助けることがある」と回答しており、問題解決に向けての技能的側面が高まったと考えられる。
			女性	・知識的側面: 女性差別について理解を深めることができたため、ほぼ全ての生徒が意識変容調査で「他人の考えや立場を尊重しようと思う」と回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査では90%以上の生徒が「人権についての意識が高まった」と回答しており、問題解決に向けての技能も高まったと考えられる。
			高齢者	・知識的側面: 高齢者差別について理解を深めることができたため、ほぼ全ての生徒が意識変容調査で「他人の考えや立場を尊重しようと思う」と回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査では90%以上の生徒が「人権についての意識が高まった」と回答しており、問題解決に向けての技能も高まったと考えられる。
			障害者	・知識的側面: 障害者差別について理解を深めることができたため、ほぼ全ての生徒が意識変容調査で「他人の考えや立場を尊重しようと思う」と回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査では90%以上の生徒が「人権についての意識が高まった」と回答しており、問題解決に向けての技能も高まったと考えられる。
			同和問題	・知識的側面: 同和教育公開授業後の調査で、ほぼ全ての生徒が同和問題について理解を深めることができた。と回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査の結果、約80%の生徒が「同和問題は人権に関わる問題だから自分も含め社会全体で解決に取り組む」と回答しており、問題解決に向けての技能も高まったと考えられる。
			外国人	・知識的側面: 外国人差別について理解を深めることができたため、ほぼ全ての生徒が意識変容調査で「他人の考えや立場を尊重しようと思う」と回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査では90%以上の生徒が「人権についての意識が高まった」と回答しており、問題解決に向けての技能も高まったと考えられる。
			インターネットによる人権侵害	知識的側面: SNS教育プログラム等により知識を深めることができたため、90%以上の生徒が「人権についての意識が高まった」と意識変容調査で回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査では90%以上の生徒が「人権についての意識が高まった」と回答しており、問題解決に向けての技能も高まったと考えられる。
			性的指向、性自認	・知識的側面: 性的指向や性自認について理解を深めることができたため、ほぼ全ての生徒が「他人の考えや立場を尊重しようと思う」と意識変容調査で回答した。 ・価値・態度的側面: 意識変容調査の結果、ほぼ全ての生徒が「友達の気持ちを大切にしようと思う」「人権を尊重しようと思う」と回答しており、自己自身の行為に責任を負う意思や態度が見られるようになった。 ・技能的側面: 意識変容調査では90%以上の生徒が「人権についての意識が高まった」と回答しており、問題解決に向けての技能も高まったと考えられる。
16	研究指定校	関市立安桜小学校	子供	知識: 安桜小たいせつ宣言の意義を理解することができた。 価値・態度: 学級の仲間だけでなく、自分の「よいところ見つけ」を行うことで、自分の頑張りやよきにも目を向けられるようになった。 技能: 「よいところ見つけ」に書く内容の視点が増えた。 上記の他に、よりよい学校生活になるか、仲間のためになるのか考え、行動する姿が出てきた。
			障害者、高齢者	・知識: 関市では、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの刃物など、様々な刃物が生産されていることを理解できた。 ・価値・態度: 使う人の立場に立つて刃物を開発する生産者の思いを知り、自分も多様な人に思いを巡らせたいと考えることができた。 ・技能: 身近な人を思い浮かべて、相手にとって使いやすい刃物を選んだり、理由を考えて紹介することができた。
			障がい者	知識: 様々な障がいがあることを知り、障がいの性質や困難さの理解が深まった。障がいのある人にとってどのようにサポートしていくとよいか学んだ。 価値・態度: 障がいのある人の努力している姿から、自分も前向きな気持ちで頑張っていくという思いをもった。 技能: 視覚障がいや車いすの介助の仕方が分かり、声をかけてサポートすることができた。 上記の他に、できないと決めつけるのではなく、自分もあきらめずに、精一杯生きようという気持ちで生活する姿が見られるようになった。
			高齢者	知識: 高齢者になると認知症という病気になったり、サポートが必要になったりすることが分かった。また、病気になるばかりでなく、社会で活躍していられる高齢者が多いことを知った。 価値・態度: 高齢者に対して温かい気持ちで接することの大切さを学んだ。 技能: 高齢者施設訪問では、高齢者に寄り添い笑顔で話をする児童の姿が見られた。 上記の他、他者を思いやる姿が多く見られるようになった。
			インターネットによる人権侵害	知識: インターネットは便利なものだが、様々な問題を引き起こすという側面についても理解することができた。 価値・態度: 自分のインターネットの使い方を見直したり、気を付けたりする気持ちを養うことができた。 技能: インターネットを活用する上でのルールやマナー、注意点など身に付けることができた。
			アイヌの人々	知識: アイヌの人々について、全く知らなかった児童が、本時を通して存在や文化について知ることができた。 価値・態度: 自分たちはちがう人々についての理解を深めたことで、他の文化に興味をもち、認め合おうとする態度を養うことができた。 技能: 自分たちとは異なる文化について理解しようとするができるようになった。
			同和問題	知識: 学習を通して、差別がどのように生まれるのか、について考えることができた。 価値・態度: 差別に関わる事象に対して、正しい知識を知ることの大切さを認識し、理不尽な差別をなくし、人権を尊重することを大切にしたいという思いをもてた。 技能: 困っている人の立場で考えたり、公平な立場で考えたりして、解決を目指すことができた。
			ハンセン病患者等	知識: 同和問題に関わる学習となつて考え、正しく知ろうという意識をもって学び考えた。 価値・態度: 法律や政治、周りからの偏見など、差別を生み出す問題に対して「おかしい、間違っている、正していきたい」という思いをもつことができた。 技能: 学んだことを家族に伝え、教えてあげたい、もっといろいろ知りたいという気持ちをもつ児童もいた。
			性的指向・性自認	知識: LGBTの正しい知識を学ぶことができた。 価値・態度: 自分ごととして考えて、「どう聞かれるか?」「受け入れていきたい」など前向きに考えることができた。 技能: 互いの違いを認め、相手の立場に立つて考えたり、相手のよきを見つけたりすることができた。 上記の他に、自分が感じていた「なんか違う」という思いを打ち明けた児童もいた。
			北朝鮮当局による拉致問題等	知識: 今なお解決されていない「拉致問題」の事実を正しく理解できた。 価値・態度: 「拉致問題」を通して、「いじめ」や「差別」など基本的な人権を侵害する行為は、絶対に許されないという気持ちをもつことができた。 技能: 全ての人の人権を守るために自分ができることを考え、まとめることができた。
20	研究指定校	滋賀県立国際情報高等学校	インターネットによる人権侵害	知識的側面: この分野の学習には85%の生徒が興味を持っており、実施後のアンケートでも90%以上の生徒が「正しい知識を知ることができた」と答えた。 価値・態度的側面: ほぼ100%の生徒が、今後SNS等の使い方に気を付けたいと答えた。
			女性・高齢者・障害者・外国人など	知識的側面: アンコンシャス・バイアスについては、ほぼ100%の生徒が新しく知ったと答えていた。 価値・態度的側面: 無意識による差別について、95%以上の生徒が自分の言動を振り返ったと答えた。
			女性・同和問題・外国人	知識的側面: 講演のについて94%の生徒が「新しく知ることができた」と答えた。アンコンシャス・バイアスについても90%以上が「わかった」と答えた。 価値・態度的側面: 自分自身の経験と結びつけて考えられたと答えた生徒が95%であった。 技能的側面: 振り返りの中で「より意識したい」という決意が多く、不適正質問に対してどのように対処すれば良いか分かったという意見が多く見られた。
			女性・HIV感染者等・「性と生命」の問題	知識的側面: 新しいことを知ることができたという生徒が90%以上いた。 価値・態度的側面: 今までの自分の行動を振り返ったと答えた生徒がほぼ100%であった。 技能的側面: 今後の自分の行動(性との向き合い方)について考えたという生徒が多かった。
			性的指向、性自認	知識的側面: 理解が深まったと答えた生徒が98%であった。事前学習をしたことで講演の内容がより分かりやすくなったと考えられる。 価値・態度的側面: 自身の経験と結びつけて考えられたと答えた生徒がほぼ100%であった。 技能的側面: 振り返りの中で「他者の価値観をより尊重したい」という意見が多く見られた。

申請者名	事業	地域・学校名	取り組んだ個別の人権課題	事業成果
			女性・性的指向、性自認	知識的側面：新しく知ることができたと答えた生徒が90%いた。 価値・態度的側面：自身の行動を振り返ることができたと答えた生徒が90%いた。 技能的側面：具体的な例が挙げられたことで、今後の行動の参考にしたいと答えた生徒がほぼ100%であった。
22 大阪府	研究指定校	岸和田市立城北小学校	子供	【知識的側面】(94.6% → 95.4%) ・すべての人が大切にされなくてはならないと思いますか。 ・様々な考えをもつ人々と暮らしていくことを知っていますか。 ・友だちと考えや気持ちを伝え合うことは大切ですか。 【価値・態度的側面】(79.7% → 85.2%) ・友だちと仲良くなれるよう自分から行動していますか。 ・よりよい仲間づくりのために自分から進んで参加していますか。 ・様々な価値観を大切にしようとする態度を身につけていますか。 【技能的側面】(81.3% → 84.3%) ・相手の立場に立って物事を考えることがありますか。 ・自分と異なる考えを持つ友だちに対しても関わることができますか。 ・よい仲間をつくるため、多くの友だちと協力して行動することができますか。 (児童の感想) ・みんな大事にしたい権利が違うのだということがわかった。 ・きれいな空気をすう権利を最後の方にしている人が多く、生きていくうえで大切なことを最後まで残している人が多いと思った。 ・自分は一番大事だと思っていた権利をはじめに降ろす人がいてびっくりした。
			女性	【知識的側面】(60.8% → 62.0%) ・女性はこの家事、男性はこの仕事といった性別による役割があると思いますか。 ・性別によって得をしたり損をしたりすることは良くないことだと思いますか。 ・どのような男女差別があるのかを知ることが大切なことだと思いますか。 【価値・態度的側面】(56.5% → 61.3%) ・性別に関わらず協力し合うことは大切だと思いますか。 ・性別に関わらず人の意見や考えを大切にしていますか。 ・性別にこだわらず個性や能力を発揮し、自分らしく活動できることは素晴らしいと思いますか。 【技能的側面】(68.7% → 74.5%) ・男女平等な考え方が周りに広がっていることを願っていますか。 ・性別に関わることなく協力することができますか。 ・男女がともに過ごしやすいようになるためにはどのようにすればいいか考えることができますか。 (児童の様子) ・「楽しい」「もっとやりたい」「おもしろい」という発言が聞かれた。 ・個性の言葉探しの時、「○○さんはやさしい」といった友達のことを考える意見があった。
			高齢者	【知識的側面】(81.8% → 86.1%) ・日本やあなたのすんでいるところにたくさんの高齢者が住んでいることを知っていますか。 ・高齢者が困っていることについて知っていますか。 ・高齢者について学ぶことは自分の役に立つと思いますか。 【価値・態度的側面】(80.6% → 85.1%) ・高齢者問題について調べてみたいことはありますか。 ・高齢者のことを大切にしようとする気持ちはありますか。 ・高齢者のために自分ができることはあると思いますか。 【技能的側面】(78.9% → 85.5%) ・高齢者の人の気持ちを考えることはありますか。 ・高齢者が困っているとき、助けたいですか。 ・高齢者の立場に立って物事を考えることができますか。 (児童の感想) ・お年寄りの方が困っていたら、自分にできることを探して手助けをする。 ・ペットボトルを開けるときに、強くしまっていると感じて困った。階段を下るとき、前かがみで倒れそうだった。 ・お年寄りの人は足腰が弱いから、お年寄りの役に立つものがあつたらいいと思った。
			障害者	知識的側面】(87.8% → 89.0%) ・いろいろな障がいがあることを知っていますか。 ・障がいのことについて知りたいですか。 ・障がいについて学ぶことは自分の役に立ちますか。 【価値・態度的側面】(88.6% → 86.1%) ・障がいのことについて聞いてみたいことはありますか。 ・障がいのある人のことを大切にしようとする気持ちはありますか。 ・障がいのある人のために何をしたらいいか考えることができますか。 【技能的側面】(88.9% → 89.5%) ・障がいのある人の気持ちを考えることはありますか。 ・障がいのある人が困っているとき、助けますか。 ・障がいのある人と一緒に協力して行動できますか。 (児童の感想) ・スロープを下るとき、怖かったけど、「動くよ～」と声をかけてくれたから安心した。 ・狭い道を通るとき、どう感じるかわからずとも悩んだ。道には自転車を停めたり、物を置いたりするのはよくないと感じた。
			同和問題	【知識的側面】(82.8% → 88.9%) ・世界には差別など様々な人権問題があることを知っていますか。 ・差別をされていた(いる)人がいることを知っていますか。 ・同和問題について知りたいですか。 【価値・態度的側面】(66.5% → 70.3%) ・差別や偏見のことを調べてみたいですか。 ・差別を許さない態度を身につけていますか。 ・差別などの人権問題を解消するために行動してみたいですか。 【技能的側面】(78.7% → 82.5%) ・自分以外の人の気持ちを考えることができますか。 ・困っている人を助けますか。 ・すべての人が暮らしやすい社会にするため、将来、行動してみたいですか。 (児童の様子) ・江戸時代からの差別の実態と、その中でたくましく生きてきた人々の歴史を学ぶことによって、それぞれの時代における、不合理さを知り、自分たちの心の持ち方と行動で差別を減らし、なくすことができることに気づくことができました。
			外国人	【知識的側面】(75.0% → 85.3%) ・日本とちがう国のあいさつや遊びを知っていますか。 ・外国の人と友だちになってみたいですか。 ・外国のことを知りたいですか。 【価値・態度的側面】(56.9% → 74.7%) ・外国の人に聞いてみたいことはありますか。 ・外国の人と仲良くなるために自分から行動しますか。 ・外国の人に日本やあなたの住んでいるところのことを知ってもらいたいですか。 【技能的側面】(85.0% → 87.7%) ・外国の人の気持ちを考えることができますか。 ・困っている外国の人を助けますか。 ・外国の人と協力して行動できますか。 (児童の感想) ・その国の出身だからと言って、みんな同じ(性格・得意なこと・考え方)ではない。 ・相手がどう思うか、考えながら話すようにする。
			インターネットによる人権侵害	【知識的側面】(96.9% → 96.4%) ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 ・すべての人が大切にされなくてはならないと思いますか。 ・友だちと考えや気持ちを伝え合うことは大切だと思いますか。 【価値・態度的側面】(80.2% → 85.9%) ・いじめ問題を解消するために自分から行動できますか。 ・仲良くするために自分から友だちに働きかけますか。 ・差別を許さない態度を身につけていますか。 【技能的側面】(83.3% → 85.0%) ・いやなことを言われたりされたりしている人がいたら、助けることができますか。 ・相手の立場に立って人と関わることができますか。 ・よいクラスを作るために、友だちと協力して行動できますか。 (児童の感想) ・差別やいじめ、仲間外れをしてはいけない。自分とは違って当たり前。人には個性があるから、その個性をばかにしたり、いじめをするのは違う。 ・誰かを傷つけてしまっているのかもしれない。そう考えていこうと思った。
			性的指向、性自認	【知識的側面】(72.6% → 80.4%) ・女性が女性を好きになる、男性が男性を好きになることは、不自然だと思いますか。 ・女の人は女らしくないといけないと思いますか。 ・男の人は男らしくないといけないと思いますか。 【価値・態度的側面】(43.5% → 46.3%) ・友だちに同性愛であることを打ち明けられたら、素直に受け入れられますか。 ・男の人がスカートをはいたり、お化粧をするなどしている人のことを理解することができますか。 ・女の人が男性用の服を着ていたり、男性向けの髪型をしている人のことを理解することができますか。 【技能的側面】(66.9% → 70.5%) ・その人の性別らしくないという理由でからかわれている友だちがいたら味方になれますか。 ・体は男性だけれど心は女性、体は女性だけれど心は男性の人にどのような悩みがあるか考えられますか。 ・体と心の性が同じでない人と協力して行動できますか。 (児童の感想) ・正直、自分が男の子よりなのか女の子よりなのか迷う。女の子のことが好きだけど、男の子の中でも男の子を好きになることがあるのを初めて知った。 ・見方を変えると、こんな素敵な一面があるんだということが分かった。
23 大阪府	研究指定校	東大阪市立枚岡中学校	子ども	【知識的側面】 ・あなたはどんな人権課題があることを知っていますか(「子ども」に関する言葉の記入人数 7名 → 32名) 【価値的・態度的側面】 ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考える(肯定的回答率 59% → 67%) 【技能的側面】 ・人が困っているときは、すすんで助ける(肯定的回答率 91% → 93%) 《生徒の発言》 ・子どもの権利条約に基づいて自分たちの生活を見直し、学校生活において意見を主張する場面が増えた。
			同和問題	【知識的側面】 ・あなたはどんな人権課題があることを知っていますか(「同和問題」に関する言葉の記入人数 2名 → 91名(2年生)) 【価値的・態度的側面】 ・自分にはよいところがある(強肯定的回答率 24% → 34% (2年生)) 【技能的側面】 ・人が困っているときは、すすんで助ける(肯定的回答率 91% → 93%(2年生)) 《生徒の発言》 ・取組みを通して、集団における自分の力や役割を感じたことや、仲間の思いを知り、つながりが強まる体験をしたことで、一つひとつの取組みに対する生徒の反応が前向きになってきた。
			障害者	【知識的側面】 ・あなたはどんな人権課題があることを知っていますか(「障がい者」に関する言葉の記入人数 4名 → 23名) 【価値的・態度的側面】 ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考える(肯定的回答率 61% → 61%) 【技能的側面】 ・授業で学校の友達と間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝える(肯定的回答率 84% → 87%) 《生徒の発言》 ・当事者との出会いを通じた学習により、学級など身のまわりの環境をよくするために何をすべきかを考えようとする生徒が増えた。
			外国人	【知識的側面】 ・あなたはどんな人権課題があることを知っていますか(「外国人」に関する言葉の記入人数 118名 → 161名(全学年)) 【価値的・態度的側面】 ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考える(肯定的回答率 59% → 67%(2年生)) 【技能的側面】 ・人が困っているときは、すすんで助ける(肯定的回答率 92% → 93%(3年生)) 《生徒の発言》 ・行事や学習を通して学んだ外国に関する文化や仲間の思いを尊重することの大切さを、他校園にも発信し、つながりをより広げていこうとする姿がみられるようになった。
			インターネットによる人権侵害	【知識的側面】 ・あなたはどんな人権課題があることを知っていますか(「インターネット」に関する言葉の記入人数 14名 → 23名(全学年)) 【価値的・態度的側面】 ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考える(肯定的回答率 59% → 67%(2年生)) 【技能的側面】 ・人が困っているときは、すすんで助ける(肯定的回答率91%→93%(2年生)) 《生徒の発言》 ・社会で起きているインターネット上の問題、身のまわりのトラブルに対する関心をもつ生徒が増えた。 ・情報リテラシー能力の必要性を感じ、インターネットやSNSによるトラブルを未然に防ぐ方法や、情報機器の有効な活用方法を、生徒が主体的に考え、学校全体に発信する「デジタル委員」の取組みにつながった。

申請者名	事業	地域・学校名	取り組んだ個別の人権課題	事業成果
			性的指向・性自認	<p>【知識的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> あなたはどんな人権課題があることを知っていますか（「性的指向・性自認」に関する言葉の記入人数 89名 → 115名） <p>【価値的・態度的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える（肯定的回答率 61% → 61%） <p>【技能的側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人が困っているときは、すすんで助ける（肯定的回答率 91% → 88%） <p>≪生徒の姿容≫</p> <ul style="list-style-type: none"> 制服選択において、自分を表現しようと思う生徒が増えた。 数値は下がったものの、学習したことをふまえ、多目的トイレなどの学校の施設において関心をもち、施設の見直しの必要性を議論し、改善を求める生徒が増えた。
24	大阪府 研究指定校	能勢町立能勢ささゆり学園	同和問題	<p>（6年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：すべての人が大切にされなくてはならない（95.9%⇒98%） 価値・態度的側面：将来の夢や目標がある（75.9%⇒86%） 技能的側面：友だちの話や意見を最後まで聞くことができる（98%⇒100%）（子どもの姿容） <p>自分のふるさとに誇りを持ち、自分は一人ではなく、仲間とともに行動したいという姿勢を持つようになった。</p>
			インターネットによる人権侵害	<p>（9年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている。（90.6%⇒93.2%） 価値・態度的側面：差別を許さない態度を身につけている。（90.6%⇒93.2%） 技能的側面：相手の立場に立って物事を考えることがある。（84.4%⇒100%）（子どもの姿容） <p>インターネット上の人権侵害を自分事としてとらえ、差別的な表現内容に対して鋭い感覚を持つことにつながった。</p>
			性的指向・性自認	<p>（9年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている。（90.6%⇒93.2%） 価値・態度的側面：わたしには、いろいろないところがある。（52.8%⇒66.7%） 技能的側面：人が困っているときに進んで助けている。（77.8%⇒83.3%）（子どもの姿容） <p>ジェンダー平等の観点をきっかけに、個々の「自分らしさ」や「もちあじ」を尊重しようとする姿勢につながった。</p>
			子ども	<p>（1～6年生の肯定的評価の割合変化 7月⇒11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか。（91.1%⇒94.0%） 価値・態度的側面：あなたのよいところを先生や友だちは認めてくれますか。（87.1%⇒90.8%） 技能的側面：話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりしていますか。（80.7%⇒83.5%） <p>（子どもの姿容）</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間の生活や思いにふれ、互いに認めあいつながりあう喜びを知り、積極的に自分を語ろうとする姿勢につながった。
25	大阪府 研究指定校	大阪府立東淀川高等学校	子供	<p>○学校の特徴を生かしながら、文化の違い等により発生する可能性があるいじめや貧困問題への理解が深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面（設問：友だちの考えが素晴らしいと思うことはありますか？） 92.9%（事前）→ 94.0%（事後） 価値・態度的側面（設問：友だちが困っているとき自分から助けることはありますか？） 92.1%（事前）→ 92.3%（事後） 技能的側面（設問：他人の考えや立場を尊重しようと思いますか？） 99.0%（事前）→ 97.4%（事後）
			障がい者	<p>○ともに学ぶ際のお互いの関わりを考えるなど、生徒の障がい者理解が進んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面（設問：友だちの考えが素晴らしいと思うことはありますか？） 92.9%（事前）→ 94.0%（事後） 価値・態度的側面（設問：友だちが困っているとき自分から助けることはありますか？） 92.1%（事前）→ 92.3%（事後） 技能的側面（設問：他人の考えや立場を尊重しようと思いますか？） 99.0%（事前）→ 97.4%（事後）
			同和問題	<p>○同和問題を自分ごととしてとらえるなど、生徒の同和問題の理解が進んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面（設問：友だちの考えが素晴らしいと思うことはありますか？） 92.9%（事前）→ 94.0%（事後） 価値・態度的側面（設問：友だちが困っているとき自分から助けることはありますか？） 92.1%（事前）→ 92.3%（事後） 技能的側面（設問：他人の考えや立場を尊重しようと思いますか？） 99.0%（事前）→ 97.4%（事後）
			外国人	<p>○日本語指導が必要な生徒選抜により入学した生徒が在籍する学校として、全校で多文化共生への理解が深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面（設問：友だちの考えが素晴らしいと思うことはありますか？） 92.9%（事前）→ 94.0%（事後） 価値・態度的側面（設問：友だちが困っているとき自分から助けることはありますか？） 92.1%（事前）→ 92.3%（事後） 技能的側面（設問：他人の考えや立場を尊重しようと思いますか？） 99.0%（事前）→ 97.4%（事後）
			インターネットによる人権侵害	<p>○インターネットによる人権侵害への生徒の理解が深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面（設問：友だちの考えが素晴らしいと思うことはありますか？） 92.9%（事前）→ 94.0%（事後） 価値・態度的側面（設問：友だちが困っているとき自分から助けることはありますか？） 92.1%（事前）→ 92.3%（事後） 技能的側面（設問：他人の考えや立場を尊重しようと思いますか？） 99.0%（事前）→ 97.4%（事後）
			北朝鮮当局による拉致問題等	<p>○人権課題のひとつとして、生徒の拉致問題についての理解が進んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識的側面（設問：友だちの考えが素晴らしいと思うことはありますか？） 92.9%（事前）→ 94.0%（事後） 価値・態度的側面（設問：友だちが困っているとき自分から助けることはありますか？） 92.1%（事前）→ 92.3%（事後） 技能的側面（設問：他人の考えや立場を尊重しようと思いますか？） 99.0%（事前）→ 97.4%（事後）
31	広島県 研究指定校	広島県立向原高等学校	子供	<p>【価値的・態度的側面】人それぞれに考え方や感じ方に違いがあってよいと感じる生徒の割合が94.5%から95.8%に増加した。</p> <p>【技能的側面】自分の思いや考えを工夫しながら表現することができた。</p>
			子供、高齢者	<p>【価値的・態度的側面】「この描き方がいいですね」「言葉が素敵だね」など、相手の作品のよさを進んで見つけようとする態度が見られるようになった。</p> <p>【技能的側面】幼児期の子供から高齢者まで様々な年齢の方が参加していたが、相手に応じたコミュニケーションをとることができるようになった。</p>
			高齢者	<p>【価値的・態度的側面】相手は困っていることは何か、どう伝えたら分かりやすいかなど、相手の立場に立って物事を考え、対応しようとするようになった。</p> <p>【技能的側面】聞かれたことに対して、実際に操作して示したり、メモを渡したりするなど、相手に応じた対応ができるようになった。</p>
			アイヌの人々	<p>【知識的側面】アイヌの文化をはじめとし、世界には様々な文化があることを理解することができた生徒の割合が68.4%から94.6%に増加した。</p> <p>【価値的・態度的側面】文化の多様性を尊重することが大切だと思う生徒の割合が82.5%から92.9%に増加した。</p>
			HIV感染者等	<p>【知識的側面】性感染症やHIV感染症の原因やその予防方法について理解することができた生徒の割合が77.8%から100%に増加した。</p> <p>【価値的・態度的側面】感染症について正しい知識に基づき、自分ができるところを考えて行動しようと思う生徒の割合が94.4%から100%に増加した。</p>
			ハンセン病患者等、その他（日本国憲法の理解）	<p>【知識的側面】ハンセン病に関する歴史や現状について理解した生徒の割合が50.9%から100%に増加した。日本国憲法の基本的人権の考え方について理解することができた生徒の割合が91.8%から100%に増加した。</p> <p>【価値的・態度的側面】偏見や差別のない社会の実現のために必要なことを考えていこうとする生徒の割合が93.0%から95.9%に増加した。</p>
			インターネットによる人権侵害	<p>【知識的側面】情報の収集・発信に必要な情報モラルについて理解した生徒の割合が81.7%から100%に増加した。</p> <p>【価値的・態度的側面】情報を収集・発信するときは、社会にもたらす影響を考えて行おうとする生徒の割合が81.7%から100%に増加した。</p> <p>【技能的側面】情報収集するときは、情報の真偽を見極め、必要な情報を活用することができるとう回答した生徒の割合が88.3%から100%に増加した。</p>
			性的指向、性自認	<p>【知識的側面】性の多様性に気付き、自分らしく生きる・本音で生きることの大切さを学ぶことができた。</p> <p>【価値的・態度的側面】自分のまわりにも様々な考えの人がいて、悩み苦しんでいるかもしれないことに気付き、相談してもらえ存在になりたいと考える生徒もいた。</p>
33	徳島県 研究指定校	徳島市 富田中学校	子ども	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：「子どもの権利条約」の権利を2つ以上知っている。20%→81% 価値・態度的側面：自分を大切にしている。70.5%→76.7% 技能的側面：自分と異なる価値観をもつ友達に対しても関わることができる。86%→88%
			女性	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：女性に関する人権問題について知っている。80%→90% 価値・態度的側面：友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切だと思う。95%→96% 技能的側面：自分の意見をしっかりと伝えられる。56%→64%
			高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：エイジズムという言葉を知っている。28%→81% 価値・態度的側面：高齢者に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。52%→72% 技能的側面：人が困っているときは、進んで助けている。73%→75% <p>上記のほか、普段の生活の中で、高齢者への差別が起こっていないか、年齢や見た目で見え方を決めつけていないかなどを意識して過ごすようになったと答える生徒が多数いた。</p>
			障がい者	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：様々な考えや個性をもつ人々と暮らしていることを理解している。92%→92% 価値・態度的側面：障がい者に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。58%→79% 技能的側面：人の話や意見を最後までよく聞くことができる。88%→92%
			同和問題	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：現在も部落差別が存在することを知っている。66%→86% 価値・態度的側面：同和問題を解消するために行動しようと思う。65%→74% 技能的側面：嫌なことを言われたりされたりしている人がいたら、助けることができる。77%→77%
			アイヌの人々	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：アイヌの人々に関する人権問題について知っている。46%→78% 価値・態度的側面：アイヌの人々に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。15%→63% 技能的側面：仲間と協力して、学習活動に取り組むことができる。89%→90%
			外国人	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：外国人に関する人権問題について知っている。80%→88% 価値・態度的側面：外国人に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。40%→79% 技能的側面：相手の立場に立って物事を考えることができる。83%→85%
			HIV感染者等	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：正しい知識を身に付けることは大切だと思う。92%→94% 価値・態度的側面：HIV感染者等に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。33%→80% 技能的側面：知り得た情報が正しいかどうか吟味したり分析したりすることができる。75%→78%
			ハンセン病患者等	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：ハンセン病に関する人権問題について知っている。46%→96% 価値・態度的側面：人権問題を解消するために何をすべきか考え、行動しようと思う。84%→93% 技能的側面：人の意見をしっかりと聞き、自分の意見を伝えることができる。75%→84%
			刑を終えて出所した人	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：刑を終えて出所した人の人権について理解している。65%→87% 価値・態度的側面：刑を終えて出所した人の人権問題を解消するために行動しようと思う。25%→72% 技能的側面：自分自身の中や日常生活にある偏見や差別を見きわめることができる。76%→79%
			犯罪被害者等	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：偏見や差別によって社会から孤立、排除されるしくみについて理解している。67%→87% 価値・態度的側面：犯罪被害者等に関する人権問題を解消するために行動しようと思う。45%→75% 技能的側面：複数の意見から合意形成に向けて話し合うことができる。76%→80%
			インターネットによる人権侵害	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：インターネット上での人権侵害の具体例を知っている。87%→95% 価値・態度的側面：偏見や差別を許さない態度を身につけている。84%→87% 技能的側面：他者の気持ちを想像して、行動することができる。84%→87%
			北朝鮮当局による拉致問題等	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：北朝鮮当局による拉致問題等に関する人権問題について知っている。54%→84% 価値・態度的側面：北朝鮮当局による拉致問題を解消するために行動しようと思う。26%→68% 技能的側面：相手の立場に立って、気持ちを受け止め、共感的に理解することができる。87%→87%
			性的指向、性自認	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：性的マイノリティ(LGBTQ+)という言葉の意味を知っている。35%→97% 価値・態度的側面：社会をよりよくするために、何をすべきか考えることができる。76%→91% 技能的側面：よい集団をつくるために、仲間と協力して行動することができる。88%→93%
			防災と人権	<ul style="list-style-type: none"> 知識的側面：全ての人が大切にされなくてはならないと思う。92%→95% 価値・態度的側面：自分のよさがわかり、自分自身の命を大切にしている。86%→89% 技能的側面：自他の命を大切にしたいと行動をとることができる。80%→90%

申請者名	事業	地域・学校名	取り組んだ個別の人権課題	事業成果
35 愛媛県	研究指定校	今治市立波方小学校	子供	児童の姿を測るため、人権に関するアンケートを全校児童対象に令和4年4月と令和5年1月に行った。 【知識的側面】 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、「思う」と答えた児童は98.9%から99.2%に高まった。これは、元来高かった児童のいじめを許さない意識が、人権・同和教育の視点を明確に位置付けた教科横断的な学習と、仲間意識に変えられた集団づくりの推進により、更に育まれたためと考える。 【価値・態度的側面】 「相手のことを思いやり、力を合わせて活動していると思いますか」という問いに、「いつも」している「どちらかと言えば」と答えた児童は、合わせて89%から95%に高まった。「周りに困っている人がいたら、助けられるように行動していると思いますか」という問いに、「よく行動していると思う」「どちらかと言えば行動していると思う」と答えた児童は、合わせて91%から97%に高まった。このことから、相手の気持ちに気付き、周りを助けたという気持ちの高まりは、児童の意識の流れを重視した総合的な単元構成による授業実践に粘り強く取り組んだ成果の一つと考える。 【技能的側面】 「相手の気持ちを考えて話していると思いますか」という問いに、「よく考えて話していると思う」「どちらかと言えば考えて話していると思う」と答えた児童は、合わせて88%から91%に高まった。このことから、授業や学級活動で話し合ったり、アサーションを用いた伝え方を学んだりすることを通して、相手意識が芽生えてきていると考えられる。また、「誰かが良くない行動をしていたら、自分はどう行動をしていますか」という問いに、「何もしないと答えた児童は、4%から3%に減った。」「注意する」と答えた児童は68%から66%になり、「先生に相談する」と答えた児童は18%から21%となった。このことから、道徳の授業や生活の中で、良くないと思ったことに対しては行動を起こす大切さを学ぶようにしたり、仲間づくりを推進したりしてきたことで、自分にできる方法で行動しようとする意識が高まりつつあるのではないかと考える。
			女性	【知識的側面】 「男女でちがいをつけられた」経験についての事前アンケートでは、40%の児童が未記入であり、意識の低さが伺えたが、学習後は、児童全員が「男女差」についての自分の考えを書くことができた。 【価値・態度的側面】 「あつてはいいないから」の解決方法を話し合い、一人一人が男女の違いではなく、個性や個人の考えを大切にしたいと考えられるようになった。 「女/男だから」をなくすためにはどうしていきたいですか」という問いに、学習前は、「よく分からない」と回答する児童が多かった。しかし、授業中のワークシートには、自分が取り組みたいことを全員が書いており、50%の児童が二つ以上書くことができた。 「女だから」「男だから」ということをなくすためにどうしていけばよいかを考え、男女関係なく同じようにすればよい、「男女差」を気にせず、そういう言葉を使わないようにし、もし言っている人がいれば大人でも注意する、と力強い意見が出た。 「誰とも仲良く過ごせるように考えて行動していると思いますか」という問いに、「よく行動している」と「どちらかと言えば行動している」と答えた児童は、授業前と授業後と比較すると、合わせて80%から91%に高まった。このことから、男女関係なく楽しい学級をつくらうとする意識の高まりが伺える。 【技能的側面】 日々の生活の中で、気になる言動を見聞きした際、男女差の偏見だと気づき、「それは個人差があるから」「個性だから」等、学習した言葉を使って自分の思いや願いを友達に伝えたり、思いやりのある言動が増えたりした。そのため、学級内でのトラブルが起きにくくなっている。
			高齢者	【知識的側面】 学習前では、高齢者の困り感をあまり理解していなかったが、加齢に伴う身体の変化、認知症とその症状、家族や社会が支える必要性について理解することができた。 【価値・態度的側面】 「地域の高齢者に対してどんなことができますか」という問いに、活動前は具体的に書くことができなかった。しかし、活動後には「挨拶をしてつながりを持つ」「道やスーパーマーケットで困っているところを見かけたら、声を掛ける」「自分の祖父は右耳が聞こえにくくから話しかける」「祖母は認知症だから、優しく接して明るくしてほしい」など全員が自分にできることを考えて書くことができた。体験活動や専門家の方々の話を聞くことを通して、高齢者の方が安心して暮らせるように、何に困っているかを見て取り、優しく言葉を掛けたり手を貸したりしたいという思いを強めた。 【技能的側面】 本来であれば、活動後に高齢者福祉施設を訪問し、学んだことを生かしながら高齢者と触れ合う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症予防のために実施できなかった。
			障害者	【知識的側面】 授業前のアンケートでは、75%の児童が点字を見たことがないと答え、点字に意識が向いていなかった。しかし、授業後、「なぜ点字が自分たちの身近にあるのですか」という問いに、「私たちが目で読む文字と同じで、情報を得るために「安心して物を使うようにするために」「みんなが平等になってほしいため」など全員がワークシートに回答することができた。このことから、視覚に障がいのある人の困り感とその思いを理解していることが伺えた。 【価値・態度的側面】 授業後、「これからどうしていこうと思いますか」という問いに、「相手の立場に立って相手の喜ぶことをしたい」「相手に合った手助けをしたい」「いろいろな立場の人が幸せに暮らせるように、自分に何ができるか考えていきたい」「点字についてもっと知って、他の人に知らせたい」という回答があった。国語科と平行して、「便利」ということを学習することにより、相手の立場に立って考えるというものの見方が広がったことが伺える。 【技能的側面】 身の回りの道具や設備の不便さについて話し合った際、「テレビの緊急放送のときには、アナウンサーの話す全ての言葉が字幕で出るようにすると、全ての人が理解できる」など、どのグループも改善点を出すことができた。これは、障がいのある人の困り感や気持ちを考えることができたからだと推察する。
			同和問題	【知識的側面】 同和問題に関する学習前には、町人や百姓とは別に厳しく差別されてきた人々について知っている児童はいなかった。学習後には、「町人や百姓とは別に厳しく差別されてきた人々とはどんな人々ですか」という問いに、「解雇などの高い技術を持ち、医学の発展に協力した人」「龍安寺の石庭を作った人」「自分の仕事に誇りを持っていた人」「差別を受けていても困っている人を見捨てず行動した人」「差別を無くすために差別に立ち向かった人」など功労や誇らしい生き方を認識し、肯定的なイメージを持っていることが伺えた。また、「この人々に対する差別についてどう思いますか」という問いには、全員が「許せない」「あつてはいいない」「なくしたい」と回答し、不合理な差別であると認識した。 【価値・態度的側面】 「町人や百姓とは別に厳しく差別されてきた人々の生き方を知って、これからどのようなことを大事にしたいですか」という問いには、「自分のことだけでなく、相手の気持ちも考えて行動したい」「お互い協力しあっても解決しない。だから復讐はやりたくない」「誰一人悲しい思いをしてほしくないから、見て見ぬふりをせず声を掛けたい」などの回答があった。学習を通して、不合理な差別は絶対にあってはいいない、差別を無くしたいという思いを持った。また、「周りに困っている人がいたら、助けられるように行動していると思いますか」という問いに、全員が肯定的な回答をし、差別につながる状況を自ら行動して解決していきたいという思いが伺えた。 【技能的側面】 「誰かが良くない行動をしていたら、自分はどう行動をすると思いますか」という問いに「注意する」「相談する」と答えた児童が98%で、自分にできることを考えて行動している様子が伺えた。
			インターネットによる人権侵害	【知識的側面】 「インターネットを使うときに、気を付けることを知っていますか」という問いに対して、74%の児童が、インターネットを使うときは気を付けたいといけないと知っているが、何をどう気を付けたいといけないのか、具体的にはよく分からないと回答した。しかし、社会科や学級活動で学習した後は、ルールやモラルを守る必要性を理解し、95%の児童が、互いの人権を守るために気を付けるべき事項を四つ書くことができた。 【価値・態度的側面】 インターネットを使って言葉のやり取りをするとき、相手のことを考えていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答が83%から93%に高まった。また、学級活動で書いた個人目標や社会科でのまとめの感想から、必要な情報は確かめて使い、情報を発信する際には、相手を傷つけないよう配慮するようになっているか考えようとしていることが伺えた。 【技能的側面】 学級活動「自分だったらどう伝えるか」の活動では、全員が相手の気持ちを考えた内容の文面を考えることができた。また、めあてを達成した後の自己評価カードから、「オンラインゲームでイライラしたときに嫌な言葉を使わないようにした」「友達や家族にメールを送るときは読み返すようにした」など、相手の気持ちを考えた実践していることが伺えた。 上記のほか、「相手の気持ちを考えて話していますか」という問いにおいては、肯定的な回答が82%から92%に高まった。日ごろの言葉遣いにおいても、相手の気持ちを考えようとする姿勢が見られるようになってきている。
36 愛媛県	研究指定校	西予市立宇和中学校	子供	・知識的側面：「他人の人権を侵害する行為は行ってはならないと思うか」に対して、98%を超える肯定的回答率を維持できた。 ・価値・態度的側面：「周りの良いところを感じることもあるか」に対して、97%の肯定的回答率を得た。 ・技能的側面：「いじめやいじめにつながる行為を止めようとしているか」に対して、9割を超える肯定的回答率を維持できた。
			女性	・知識的側面：「考え方や感じ方には人それぞれ違いがあつてよいと思うか」に対して、肯定的回答率が99%になった。 ・価値・態度的側面：ジェンダーフリーの世の中にしていくために、大切なことを真剣に考える姿勢が見られた。 ・技能的側面：それぞれの違いを、良さとして認め合う姿がより見られるようになった。
			高齢者	・知識的側面：認知症をはじめとする高齢者についての正しい知識を身に付けた。 ・価値・態度的側面：実践後に、高齢者を支えていこうとする感想が多く見られた。 ・技能的側面：疑似体験をしたことで、困っている人への声掛けや具体的なサポートのスキルが高まった。
			障害者	・知識的側面：「自分や周囲の人を含めて、人は誰でも生き生きと生活できるはずだと思うか」に対して肯定的な回答率が4%増えた。 ・価値・態度的側面：「人と関わるときには、互いの立場を尊重しようとしているか」に対して否定的な回答率が減り、96%の肯定的回答率を得ることができた。 ・技能的側面：「周りに困っている人がいたら支えたり、助けたりしているか」に対して、95%を超える達成率を維持することができた。
			同和問題	・知識的側面：「他人の人権を侵害する行為は行ってはならないと思うか」に対して、98%を超える肯定的回答率を維持できた。 ・価値・態度的側面：差別をなくすためには、自分が行動を起こすことが大切であることを感想に書いた生徒が多かった。 ・技能的側面：「誰かが辛い思いをしているとき、一緒に考えようとしているか」に対して、肯定的回答率が2%増え、95%の肯定的な結果を得ることができた。
			ハンセン病患者等	・知識的側面：ハンセン病やそれに関わる政策について、正しく理解した。 ・価値・態度的側面：ハンセン病に対する差別のような問題を二度と繰り返さないようにしたいという感想が多く見られた。 ・技能的側面：「自分が正しいと思ったことを人に伝えたり、行動に移したりできるか」に対して、否定的な回答率が2%減り、改善が見られた。
			インターネットによる人権侵害	・知識的側面：「他人の人権を侵害する行為は行ってはならないと思うか」に対して、98%を超える肯定的回答率を維持できた。 ・価値・態度的側面：授業や講演の後の感想では、SNSの使い方を直そうとする感想が多く見られた。 ・技能的側面：「友達が間違っていたら注意しているか」に対して9割の肯定的回答率を維持することができた。
			性的指向、性自認	・知識的側面：「考え方や感じ方には人それぞれ違いがあつてよいと思うか」に対して、肯定的回答率が99%になった。 ・価値・態度的側面：「人と関わるときには、互いの立場を尊重しようとしているか」に対して、否定的な回答率が減り、96%の肯定的回答率を得ることができた。 ・技能的側面：言葉や行動など、性的マイノリティ当事者がいることを前提とした言動が多くみられるようになった。
43 熊本県	研究指定校	宇城市立小川小学校	子供	・技能的側面：アンケート結果から、自分の思っていることや感じていることを伝えたいと考える児童の割合が、5月から12月にかけて15.8ポイント増えた。
			同和問題（部落差別）	・知識的側面：アンケート結果の「いじめや差別は絶対にいけないもの」という項目で、肯定率が11月時点で100%となり、認識の深まりが見られた。 ・クラスの問題も自分たちで解決しようと話し合う姿が顕著に見られるようになった。
			ハンセン病患者等	・知識的側面：アンケート結果から、いじめや差別はどんな理由があつてもいけない、友達と考えや気持ちを伝え合うことは大切だという意識の変化が見られた児童がいた。
			インターネットによる人権侵害	・知識的側面：アンケート結果から自他の存在が大切であるという認識の深まりが見られ、肯定率が9月には100%となった。 ・メディアに関するルール作りをする家庭が増えた。
			その他（水俣病をめぐる人権）	・知識的側面：アンケート結果の「いじめや差別はどんな理由があつてもいけない」という項目で5月から12月にかけて肯定率が6.6ポイント上昇し、認識の深まりが見られた。 ・正しい知識を身に付けなければならないこと、人々のつながりが大切であることを実感する児童の振り返りがあった。
45 鹿児島県	研究指定校	瀬戸内町立古仁屋中学校	子供の人権	・自分の人権のみならず他人の人権について正しく知ることができた。 ・班活動等を通して、人権を相互に尊重し合うことができた。 ・自分と他人の大切さが認められるような環境作りをしようとする意識が高まっている。
			高齢者の人権	・高齢者の方々が様々な知恵や技術をもっていることを知ることができた。 ・高齢者に対する感謝や思いやりの気持ちを育むことができた。 ・生活の中で、自分自身にできることを考えることができた。
			障害者の人権	・社会における障害者の状況を知ることができた。 ・誰もが同じように暮らせる社会について考え、共有し、平等な社会への意識が高まった。 ・生活の中で自分自身にできることを考えることができた。
			外国人の人権	・AITの母国や文化、日本との違いについて知ることができた。 ・異文化を認め、人権を尊重し合う態度が見られた。 ・相手意識をもち、コミュニケーションを図ろうとしていた。
			ハンセン病患者・元患者等と人権	・ハンセン病が感染症であり、その詳細や偏見について深く理解することができた。 ・患者やその家族の人たちの気持ちに寄り添った考えを共有することができた。 ・人権を尊重し、共に生きていくために自分自身にできることを考えることができた。
			犯罪被害者の人権	・犯罪被害者が抱える問題や自分たちも被害者になることについて知ることができた。 ・犯罪被害者の気持ちに寄り添った発言が聞かれた。 ・安全で安心して暮らすための課題や手段を考えるようになった。
			インターネットによる人権侵害	・インターネットによる人権侵害は誰にでも起こる可能性があることを知ることができた。 ・人権侵害の被害者、加害者にならないための心構えを育むことができた。 ・自分自身が気を付けること考えようとする言動が見られた。